



Eld: Kou MUKAI
2-12-2, ASAHIMACHI, ABENO, OSAKA, JAPAN 551

15 May, '81. ¥1,000. 247

イオム通信 向井孝

大阪市阿倍野区旭町2-12-2

▼ 夕しひりに出あつた人から、やにわに「本作り」

「いいぶん進行してますか、ときかれて、エリ…
あの…と赤面することしきり。

実のところ、まだ半分も原稿が仕上つてない段階で、あとはメモや下書きだけ。

今夜やつてきた見当では、びつしり、かか

りつきりにしてあると二カ月? しかし、

とてものことじやないが、びつしりやるの

なんて夢タで、まあ正味、月のうちの1/5

精力がかけたらよい方…」とすると…

一体、あと、どの位かかるか、いやほや、エライこつ

ちゅ。それでいつも心のスミでそのことを想えて、何となく「あせりながら」として何をせずへ気分だけ忙しく)ついついそこの日その日をすごしてしまつてている

次ガ。(手紙の返信やあれなども、おくれにおくれてすみません)(5月11日)

ハブニングの意味

5・10 女女セカンドバル



▼ 久田ちゆうじゅさんから「おいらやへ、明日、中島公会堂へいく?」とキレた。「うん、ちよつと迷てんねんけど…」「いく」とことなことだん、大いに積極的にみてこよう! という気になつた。

それは、① せつがく行く以上は、眼と心をフルに

回転して、何でもかんでどん然に

撮取してこよう。批評家にならず、うよ

つともエエとこを見つけっこよう。へ

これはいつもぼくが何かに参加すると、

心得なのだが、時々忘れるわけだ。し

② 女たちだけがあつまって、企画から

進行までの雑務のすべてをやりきつて、しかも中の島公会堂全館

を借りきつてやる大イベントなつてものは、あつたわ

うになつ。あつてもなかなか参加しない。それ

が、たとえびひろ子さんや内やん…ほくの知り

合いの彼女たちがだくさん中でメンバーだし、頗

見知りも入れたら50人くらいたちが力を入れて

る。それを知らんふりしてゐなくて做不到。

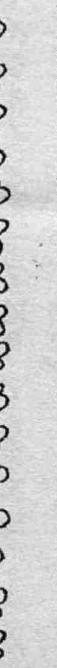
という以上に、何よりも氣易く、行きやすい。一

こんなチャンスを、男だという気おくれがら、み

すみすみがすなんてどうかしてる。千載一遇の

機会ではないか。一といううけで、以下は当日の簡単な

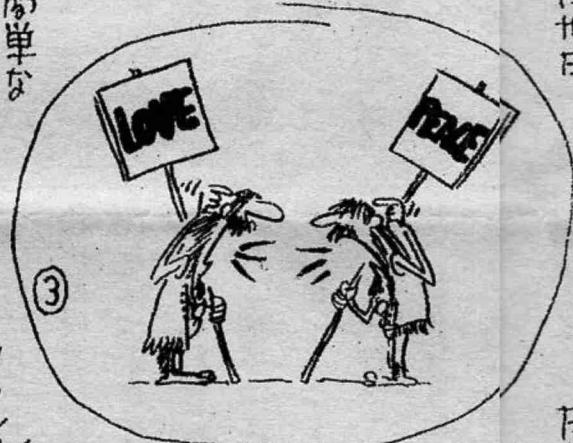
印象、それに触発されたことなどの、Xモードをりがき。



① この催しの特色は、何よりさ、当田入口でわだやれた「プロ

グラム」に表現されていた。すみすみのこまかなどこまで気をくばつた、手書きのそれは15の「ワークショップ」がそれぞれ販の一コマを割当てられて、その限定された空間「ぱいき」、ありつけのおもいをこめて、たがいに競いあつてかぎり、語りかけてくる、すたがでにさわかな声であふれていた。

それは「限定」されていてことよつて、より一そら「まやかな配慮が示され、全体として大きくまとまりながら、さまたまな色合をいたがりに引立たせあつていた。まさに、女なら



② そのワークショップには、何となくはいりにくくて、(甲葉制の部屋をあつた)入口

をのぞいた程度だったが、それこそ「プログ

ラム」のまま、それをつくり出し運営する

女たちの心づくしというが心意気が、それ

のやり方で、体わつてくるものだつた。

「女同士だから」といううたご方が、は

じめからあつて、体をやらうかく開き、許しあ

つているような、女たちの姿が印象的だつた。

③ もつとも、ぼくをぶくめた甲子たちは、いささか行き場がなくして、所在なげに大酒店の椅子に坐つて、夜のステージを

なんとなく、待つという風景がみられた。

昼夜のステージは、歌、詩朗説、落語、踊りといつたものだつた

が、夜の部の、一人芝居、歌、漫才、といつたものもふくめて、

まあ、あたりまえの出来栄えで、女の文化を示す、というには、

ただ、女が出演したとこだのけのことしかないもの

のようになつた。

そしてじよよか皮肉にも、はじめ「プログラム」になく、あとからお洋物的に入れた、昼のステージの終りにやつた「ピール」が、女たちのすばらしい表現の創造をつくりだして、最大の

圧巻「白眉」だつた。数十人が舞台にぎりぎりと

ならんで、声で「ピール」するだけではなく、「ラ

カード」や、幕、身ぶりまで入れて、グルーピー毎に

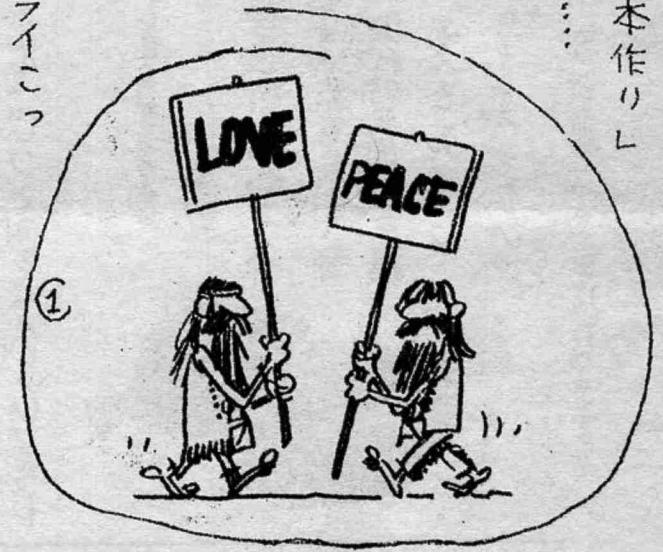
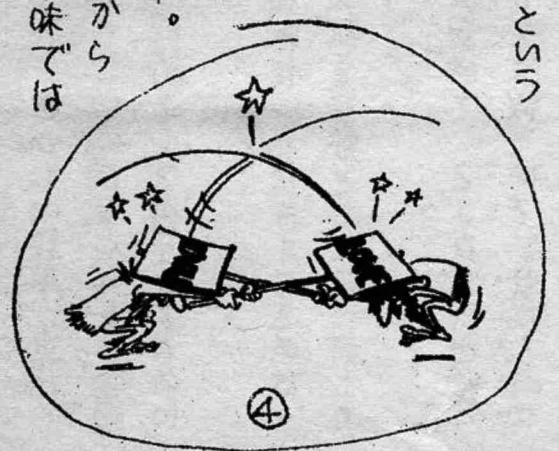
「ピール」の新しい創出だと思われた。

ここでもぼくは「限定」された短い時間、だからこそ、かさつて

すばらしい表現がつくり出される、ところを実感した。(5月10日記)

④ 夜のステージでは、ルビーフルーリ・ジヤングルという、二人のシンガーの歌にびつくり? した。
彼女たちのレズビアン観察のす

べまじしばかりの歓声に圧倒された。
「へな歓声をきくことなくて、これからもそうありえない」(Etsu)。そんな意味では



なかなかがたい経験だった。

それにもしてもホモにしてレズにしても「親密な友人同志關係としてごく自然に、肉体的にも結びつく」というふうでなくまず性關係というか、その至上主義的な傾向を強調している。という感じがするのは、なぜだろう。

(1) 夜のステージ最終の番組は、福井からの仕事を終つてかけつけた・Wさんとおぼの漫談。

さすがは以年齢新入塾だけだとかくう

プロ。早口のやつとりで、Wさんをさうやうが、なんとなべ

その場の空氣・ふべじきにやべりなー。奥席でさう、こちらを・せんせんとおだつて拍手でもすがだろーへんが、例え

ばアズ・なまどこうことばひとつまでつても日本け。

彼女たちが、やりたくさうで、氣の毒みだじな氣がしていたところへ、うしろの方から、野次がつづけてくるだ。

「エツ、あー、何ですか。すんません。私何もわからんんですよっておかしいと呟つたら、どうか教えて下さ」

「女のが演るふうとは知つてましたけれど、ともかく会社が批判をきく、弁明することはないというふうお応で、わるいことへいわれて、事情もわからず来たんですね…」

ところへ、漫才が中断するとアラハーニングが起つてゐる。

「前にでて、みんなに演じてもらひたい」という声で、あらためて出された主張は、私彈頭ではないのが、何をうもせず、よかつて。それをうけてやりとうとするWさんとおぼのの方も、卒直に批判をきく、弁明することはないというふうお応で、わるいことへいわれて、事情もわからず来たんですね…」

「あつとしたことで、気まずい・けやしい空氣になりかねないところ、なかなかあつぱれといふが、さすがおんなじう！」

そしてこのハーニングがおきて、今日の僅しのスガイ集めができる。僕がつくれたことの意味がはつきりするーと、ぼくは思つた。(5月15日)

ゲとは、運営の一方向的貢献とかへうらがうすと一般参加のや除秒キヤウミの平賀より進行(うらがえすと、セビシル株牌、立場や役割の固定とおしつけ、口の押みようもない(空氣)など、主催者側においてはナカツれぬ向歓を「媒介として出てくるせひにばかりならぬ(空氣)」

とすれば、集会やデモで、その「創造性」を保護するものは、モアハープニンゲの可能性」である。

この日ハーピニンゲの収拾は、その意味で、こがしかし田中ちのやつがなく時にほするがしこじやり方に似ていて、女・D君。リカガカラれなかつたことが、ちよつと残念だった。

主催者側のハーピニンゲを積極的に受け入れる姿勢としての、何よりのやつがなく時にほするがしこじやり方に似ていて、女・D君。リカガカラれなかつたことが、ちよつと残念だった。

これがおられたことだつたが、ちよつと残念だった。

⑥ (付記)



しま、ると五月十四日拂りかしつてみると、意外に、心に残つたことがない。その日晝夜あわせて5時間加者は、まあ六、七百人、もしくは四五百人程度五、十人足らずだつたわけだが、あそこ入場は拒まれなかつたものの、全く無視され、相手にされなかつた存在として、どりのこゝれだような感じだつたナニーとスランディング、強くかんでくるのに気がした。

(これはうささがヒガミもまじつてゐたろうが、女たちが今まで「男の集り」でしつも感じてきたものじうがじくな)

ところで、男は女に対しても、もつとセイ用」であると「アヒー、アヒー」ところで、甲斐全般的に女でありうるのは、男にして、であるだろう。

女が全般的に女でありうるのは、男にして、であるだろう。ところがこの五月十四日の儀式は、その形体として、女が女同士で女をみとめあつといふの、女を選ぶものと。つまり、女同士が相手に写しあう鏡となつていて、ふつう、女を写しあう鏡としてある男女を、全く必要としなかつた。どうしてかだうか。

どうへう一太へんか。警察の例でさざばー5月4日、天皇制

恒例でヒロヒトが皇后とくる。もうそのことでヒライこと。

式典は二時半からよつと。すげに五千人動員しての分担をあらみのハーサルも添へた。ところがヒロヒトが臨席する時は、たつたの二九分弱。奈良県はたゞたためにナント四億円うちかい税金をつりあつた。そのあと福井のボート埠へもこへんとこへから、大阪、神戸も大へん。

どうへう一太へんか。警察の例でさざばー5月4日、天皇制

恒例でヒロヒトが皇后とくる。もうそのことでヒライこと。

集つた。ところが、表に見張りの車が停まつていて、ぐらぐらまどした。喫茶店内片隅の椅子に向つさじて二人、喫茶店と窓に

なつて私服が、こいつの話に耳をたてていて、という風な感じ。大声で皮肉をいつても出でしかず、じつと耐えてじるじうし

さ?..いわはわ。

追悼



この日のステージは、(その意味では)主催者と聽衆がはつきりとわかれ、舞のと中間の交流はなく、ひろい舞の空間に、さびしく出演者がいるだけという感じで、あやうかにステージの企画は失敗の感じだつた。そして、それをうつむかせながら、このハーニングがつたかもしれない。

一かもしけない、どうのは残念ながら、そのあと同会がでてきて、時間がなじとの理由で、詰し合ひを行つて牧捨し、会が終つてから改めて…といふことになつたからで、その後どうなつたか知らなかつたのである。

日曜ぼくは、集会やデモなどの主催者側であるときも、「ハーニング」を積極的にむかえ入れ、つくり出す姿勢ですが、集会やデモの創造力であると思つてゐる。その場合の「ハーニ